



第10号 2014.12.12

発行 長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会 〒390-8602 長野県松本市美須々2-1 長野県松本美須々ヶ丘高等学校内 TEL: FAX (0263) 33-2560 (事務局直通) ホームページ (平成27年1月下旬より) http://www.misuzu-dosokai.jp/ メールアドレス jimju@misuzu-dosokai.jp

印刷 SALAT (株) サラト

私たちの同窓生 会員数 33,928人 在校生 956人 (男431、女525) 平成26年4月現在

前身学校 長野県市立松本女子職業学校 長野県松本高等家政女学校 長野県松本市立高等女学校 長野県松本市立中学校 長野県松本市立女子商業学校 長野県松本市立高等学校



同窓会会長 中村 一郎 (昭和37卒)

会員の創意工夫と協力で 同窓会を活発に

同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は同窓会発展のために格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。礼申し上げます。

さて、同窓会のこの一年を振り返ってみますと、先ず私が同窓会長を拝命して以来、最も感動しましたのが、六月二十一日に行われました平成二十六年定期総会に百名を超える大勢の会員にお

集まりいただいたことであります。このような結果が生まれた背景には運営幹事を務めていただきました昭和五十二年並びに昭和六十二年卒業の皆様の積極的で、且つ、献身的な協力体制があったからこそと考えています。改めて感謝申し上げます。次年度以降におきましても是非、このような素晴らしい総会が継続実施されますことを切に望んでおります。

また、恒例となりました双葉祭での豚



校長 寺沢 宏芳

未来に想いを伝える

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。平素より母校発展のため、多大なご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

新入生三二一名を迎え本年度がスタートし半年、生徒の多くは学習やクラブ活動に熱心に取り組む、充実した学校生活を送っています。昨年度多発した自転車事故もここまでは少なく、胸をなで下ろしています。これも四月に実施したスケ

アドストリート(スタントマン)による事故現場を再現することで、交通ルールの大切さを学ぶ取り組みや、職員が交替で行っている街頭指導などが、成果を生みつつあるからだと思います。

さて、話題としましては少し古くなつてしまいましたが、昨年の秋とも嬉しい話がありました。新聞等で報道されたのでご存知の方も多いと思いますが、現在解体修復中の奈良薬師寺の国宝「東塔」の瓦を降ろしたところ、その中に

汁サービスは相変わらずの盛況でありました。唯今年からプロパンガスの取り扱いがかなり厳しく管理されることとなりました。と申しますのも、世間を騒がせた花火大会会場の爆発火災事故が背景にあります。我々も慎重な取り扱いに終始しました。

ところで、十月三十日に開催の今年的美須々ヶ丘セミナーは、本校を昭和五十八年に卒業され現在は国立大学法人「宮城教育大学」主任教授として活躍中の佐藤哲也先生にご来校いただきました。師の専門分野でもある教育思想や人間形成論を絡めた「学びへの意欲」「教養が生活を豊かにして人と人とを結びつけること」「若者期の危機(外出会い)覚醒」が、その人の生き方を変えていくこ

と」等々、若者期の可能性について本校の生徒たちに再認識して欲しいとの思いを込めてご講演をいただきました。一方で、以前から抱えておりました要改善事項といたしまして「同窓会のホームページ」の刷新に手をつけることとしました。現在は松本美須々ヶ丘高校のホームページのトップページの中に「同窓会」の刷新に手をつけることとしました。現在は松本美須々ヶ丘高校のホームページの中に「同窓会」の刷新に手をつけることとしました。

と「等々、若者期の可能性について本校の生徒たちに再認識して欲しいとの思いを込めてご講演をいただきました。一方で、以前から抱えておりました要改善事項といたしまして「同窓会のホームページ」の刷新に手をつけることとしました。現在は松本美須々ヶ丘高校のホームページの中に「同窓会」の刷新に手をつけることとしました。

と考えております。在校生の部活動につきましては、特筆するものもございません。陸上競技ハンマー投種目でインターハイ出場。放送部はNHK全国高等学校放送コンテストに出場。八月には茨城県で開催された全国高等学校総合文化祭に出場し、全国の高校生と交流をさせていただきました。そんな在校生の活躍に対し、横断幕や激励板を寄贈し応援の一端としました。

このように学校との協力関係を築きながら同窓会および母校の益々の発展を目指して寺沢校長先生はじめ諸先生方および同窓会副会長をはじめとする全役員の方々ならびに同窓生の皆様方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

名前が刻まれた瓦が四八五枚あり、そのうち三四五枚に県内の学校名が刻まれています。実はその中に、本校も「松本市立高等学校」として二枚含まれていました。発見された場所は三層目の北面、「東塔」は各層に裳階があり見かけ上六層に見えますので、この場所は一番上の層にあたります。中信地区では本校の他に、松本蟻ヶ崎、松本県ヶ丘、松本工業豊科、南安曇農業、梓川などの高校名も確認されています。

信濃教育会に残されていた資料によると、これは昭和二〇年代中頃「東塔」の屋根葺き替え工事の際、募金の呼びかけに応じた学校名が刻まれたもので、呼びかけは修学旅行などで訪れる機会が多く、見学態度が素晴らしいという理由で長野

県だけになされたこととです。「東塔」の葺き替え工事は約一千万円、「信州生徒会」の分目標額は七〇万円、実際集まった募金額は五〇万円、高校では生徒一人あたり当時「リンゴ一個」の値段に相当する一〇円程度を目途に寄付に応じたようです。

戦後間もない時期、金銭的にも困窮を極めていた時代、子どもたちは何とか工面して貴重なお金を寄付したにちがいないと。修学旅行でお世話になり、恩返しに気持ちだっただけでしょうか。当時の県下の子どもの温かい思いや心意気が伝わってきました。また「学ぶ姿勢」が評価され、長野県にだけ寄付の要請がなされたのも嬉しい話です。実はこの話を一学期の始業式に生徒に

伝えました。後世のためにと行動した先輩の思いが目の前に現れ大きな口マンを感ずるとともに、本校名が含まれていたことが何とも誇らしい。先輩たちのこうした想いは、六〇数年の歴史を経て、今の私たちに確かに伝わってくる。後世や後輩に思いを残すことは、金額の多少でなく確かな行為である。自分ができる小さなことでも十分。明確な意思があれば誰にでもできる。在校生にもそうした行動を期待したい。最後にになりましたが、今後も教育活動を充実させ、同窓会員の皆様の期待に応えられる学校づくりを進めていくよう全力を尽くします。母校発展のため、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

百五年目の邂逅



教頭 工藤 哲夫 (昭和52卒)

この四月から教頭としてお世話になつております。昭和四十九年に入学した時、四十年後に母校の教頭という姿は想像すらしませんでした。以降多くの方々の出会いにより今あることを想い、その縁に感謝し、その重さをひしひしと受け止めております。

着任早々校内を歩いてみますと、爽やかな歌声が聞こえてきました。中庭

穴窯で地域活性化を



理事 大沢 千尋 (昭和46卒)

卒業して四十三年、長野県職員を定年退職して現在六十二歳。松本市島内山田在住で在校時オートバイ通学していました。そして部に昇格したサッカー部に三年間所属していました。

今年の定期総会で理事に選出されました。振り返れば母校(同窓会)には何も奉仕していませんでした。微力ではありますが、少しでも皆様のお役にたてればと考えています。

私が住んでいる地区から芥子坊主山一帯には平安時代に須恵器などを焼成した窯跡が多数あります。当時この辺りが信濃の須恵器産業の中心地であったとも伝えられています。小学生の頃より畑の中に転がっている「須恵器」のかげらに大きな興味を持つていました。

当時の窯を再現してみたい。この土で焼き物を作りたい。そのよう

インターネットでサークルをつくり練習をしている合唱部でした。創立百周年記念事業の学校整備委員会(橋本恵次委員長)が、県の「生徒自ら行う学習環境整備事業」とタイアップして、PTA・同窓会と共同で取り組んだ活動のひとつが中庭のインターネットロッキング敷設作業でした。私が入学した前年から始まった新校舎建設は、卒業の年にはほぼ完成し今の容となりました。その後大体育館、プールなど新しい施設が整備されてきました。建物以外の敷地の整備はほとんどされず、中庭は雨が降るとたちまち池ができ、通行や活動に支障のあるところ

でした(「ミスズ湖」と揶揄されたものです)。そのスペースを七万余個のブロックを手渡しリレーで運び、OBの専門家の指導のもと延べ五百名を超える参加者により二年越しにて完成しました。今その空間で生き生きと活動している生徒の姿を見て、とても頼もしくうれしく感じました。先日も今年の共同作業が行われ、百名を超す生徒、保護者、同窓生、職員により、教室棟廊下の壁塗装に汗を流しました。

前身である新制松本市立高校発足二年目の昭和二十四年は、二度目の甲子園出場を果たした輝かしい夏から一転、十一月の校舎全焼という不幸に見

舞われた激動の年であったことを百周年記念誌で知ることができます。現在の清水中学の校地から、旧練兵場跡地の美須々ヶ丘に移り、木造校舎三棟が竣工。落成式が昭和二十七年一月十九日真つ白い雪に覆われた校庭で行われ、雪上に腰掛を並べて着席する生徒たちの写真が掲載されています。零下十度の寒気の中であつたというその一葉に、灰燼からの復興にかけると大宙(おおぞら)を指して仰べられた指に、「この指とまれ」と未来を背負った蝶が「いざいで立たん」の姿を表す百周年ロゴマークのごとく、今までに増して同窓会先輩諸子の協働をお願いいたします。

な「夢は心の奥深く潜んでいました。平成十二年、この思いに賛同する地元住民数人と地区外の協力者を通じて「山田炎の会」を設立しました。

松本市のゴミの最終処分場を抱えた「限界集落」には「負」のイメージしかありませんでした。地域を活性化したい。地域の特色を生かしたメッセージを発信したい等の思いから「夢」を実現しようと思いました。仲間とともに、自分たちの手でレ

年となりませんが三十回を超える窯焚きを行いました。地元粘土を使用した作品が目標ですが、煩雑さ故に進まなかつたところでしたが、ようやく試作品が出来るようになり、これからは楽しみです。「山田焼」の作品が多く皆さんの目に留まるようになればと思います。仲間とともに日々精進です。

フオームを着て、タオルマフラーを掲げたり、振り回したり、特にゴール裏のサポーターは熱く圧巻でした。そしてアルウインのピッチはとて

の一年でした。J2昇格後は、徐々に観客数も増え、成績も一年目十二位、二年目七位、そして三年目の今年は十月十九日現在二位でプレーオフ圏内確定という、まさに尻上がりの成績を残しています。来年J1に昇格したらどうなるんだらうなどと妄想しつつ、残り五試合で二位をキープ、自動昇格出来るように全力で応援しようと思心を決めています。

松本山雅FCとの出会い



理事 堤 典義 (昭和52卒)

Jリーグ二〇一四年シーズンも終盤戦、まさに佳境を迎えています。この会報が発行される頃には、松本からJ1チームが誕生しているかもしれせん。

私が山雅の試合をアルウインで最初に見たのは、二〇一〇年十一月六日、当時はJFLで町田ゼルビア戦でした。初めて観戦した感想は、ファン、サポーターが選手と同じユニ

試合の方は残念ながら、1-2で敗れてしまい、相手チームの勝又選手(現長野パルセイロ)に2ゴールを奪われ、一人目立っていました。その翌年の二〇一一年シーズンに

美須々々の未来に向けて



理事 田村 義夫 (平成3卒)

は、あの松田直樹選手が加入、そして信明中学出身の宮田直樹選手が岡山からレンタルされ、息子達と同級生ということもあり、毎試合アルウインへ足を運ぶようになりまし

この度、歴史と伝統ある母校の同窓会理事を拝命致しました。私は平成三年卒業、同年卒業生数は四百一名。所謂、第二次ベビーブームに生まれた団塊ジュニア世代であります。

元公務員の実父と実母は母校の卒業生であり、また、現在は甥が在学

しております。

私の高校時代を振り返りますと、部活が中心の三年間でした。小四から下手なりに続けてきたサッカーで一時代を築こうと仲間と共に入部。幸いにも一年秋の選手権予選から出場させてもらいました。我々が最上級生となった最後の選手権では、中信予選を勝ち上がり、県大会では、一、二回戦を快勝し、全国大会出場を果たした上田東に 0-1 で敗れましたが、熊谷均先生(現・飯田 O I D E 長姫高教諭)の下、当時の母校過去最高成績ベスト 8 という成績を取めることが出来ました。当時の思い出は、今では酒の肴です。既に、頼もしい後輩達が軽々とその記録を塗り替えてくれました。ただ、未だ成し得ていない選手権での全国大会出場を切に願っております。

卒業後の母校との関わりは二十年弱無く、創立百周年に向けて活動していた同期の鳥羽俊矢君、進藤薫君、岩間由紀子さんの献身的な取り組みに心を打たれ、殆んど役に立ちませんでしたがお手伝いさせて頂きました。改めて、百周年を無事に迎えることが出来たことを誇りに思っております。

その後、仕事を通じてお世話になっておりました、副会長小林磨史様、監事小野伸二様から同窓会の定期総会にお誘いいただき、出席させていただきました。そこで拝見した先輩達の底知れぬパワーに正直圧倒されたのは今でも忘れられません。

このような地道な活動によって、母校の繁栄と歴史があるのだと強く感じるとともに、次世代に続く者達がこれをして後世に受け継いでいかなければならない使命だと確信しました。本心に微力ながら、母校の繁栄のために寄与出来ればと思っております。

活躍する卒業生



戸村(黒田)節子
(昭和 45 卒)

信濃なる美須々ヶ丘にわれ学ぶ美須々の心、懐かしい美須々ヶ丘の校歌です。
家から近いこと、男女共学校であることから希望して入学したのが松本美須々ヶ丘高校は自由にあふれ、たくさんの友達と忘れえぬ思い出を作ることができました。

いつわらずうちなごみ友愛に生く、
松尾和道生徒会長はじめ十数人の仲間との生徒会活動、生徒総会や文化祭などを通して、大人への階段を一步二歩と登ったような気がします。今でも数年に一度の仲間会では、百瀬富貴子さん、神田守健さん、豊島猛さん、百瀬衛貴男さんほか何人かお会いします。皆懐かしい方々です。



矢久保 学
(昭和 52 卒)

一昨年に肺癌の手術、そして昨年はアキレス腱の断裂を体験したことから、最近になってようやく一歩踏み込んだ健康づくりの必要性を自覚しました。そこで一念発起、市の健康づくりモニターに応募し、この夏から半年間、毎日一万歩歩くことを自分に課しています。しかし言うは易しに例えどおり、雨の日や仕事で時間がない日にはくじけそうになったりと毎日続けるにはそれなりの覚悟が必要です。飲み会の後深夜に駅前から歩いて帰宅したこともありましたが、それでも一か月経過した頃から歩くことがだんだん苦にならなくなり、そればかりか上昇する一方だった体重も減少に転じるという嬉しい結果がついてきました。現在三か月目ですが、これまでのところ毎日一万歩を達成していますので、何と

放送委員会では、丸山博章さん、堀内貞明さんと共にディスクジョッキー番組に取り組み、お昼休みのひと時、校内に軽いおしゃべりと映画音楽などを届けました。このメンバーで作品を制作し、当時、初めて放送コンクールに応募しました。結果は佳作(?)。現在では後輩たちが数々の賞をいただいているとのこと、活躍を嬉しく思っています。

わが志アルプスの新雪に似る、
高校を卒業後、遠回りをしながら市立幼稚園の教諭として六年ほど働き、その後縁あって千葉市川市へ。三人の息子の子育てが一段落した時、女性の市会議員を擁立したいがどうかとのお誘いを受けました。
知り合いの少ない市川の地で、ありがたいことに若者からお年寄りまで沢山の皆さんのご支援をいただき初当選したのが平成七年。以来五期二十年になるうとしています。女性と子どもの味方、弱者の味方をテーマとして

か目標の半年間をやり遂げ、モニター終了後も歩くことを習慣づけたと考えています。
今回の経験を通して、実際に行動することとそれを日々積み上げながら継続していくことの大切さを実感しましたが、この過程は私が松本市役所で担当している「地域づくり」と共通していると感じています。現在松本市では、地域づくりを一過性のイベントではなく、「美しく生きる。健康寿命延伸都市・松本」の創造に向けた土台づくりを位置づけ、松本独自の地域づくりシステムの構築を進めています。今後ますます進展する超少子高齢型人口減少社会では、防災、空き家対策、地域の絆づくり等の地域課題が増大し複雑化していることから、地域においては「お互い様」の精神で地域課題を解決していく「地域力」を高め、地区ごとに自治の仕組みを構築すること、そして市は地域に寄り添って課題解決への支援を行う新たな仕組みを構築していくことが必要となります。またこれからの地域づくりは、地域や行政が単独で進めることには

政策提言や相談に取り組んできました。家族の支えがあつてここまでやって来られたと感謝しています。
ここにきて政府はようやく『すべての女性が輝く社会づくりを』と女性を応援する政策を発表しています。私自身はまだまだ敵しい時代を働いてきましたが、女性が安心して力を発揮しやすい社会になることを、そして男も女も輝く社会を願ってやみません。

終わりに
三歳下の弟、黒田輝彦がなくなり丸二二年になります。美須々ヶ丘で学び、私と同時に市会議員として働かせていただき、姉弟では珍しいとよく声をかけられました。仲良しの弟でしたが、残念ながら病に勝てず他界いたしました。
皆様には大変お世話様になりました。心より御礼申し上げます。大変にありがとうございました。

限界がありますので、市民活動団体や大学、企業等との連携も重要です。そのため市では、平成二十六年度から全三十五地区に地域づくりセンターを設置し、町会と市との協働を核として、公民館や福祉ひろばとの連携を強化しながら各地区の特色を活かした地域づくりを進めているのです。

私の市役所での現役生活も残り四年と数か月になりました。私の仕事は社会教育(公民館)、地域福祉(福祉ひろば)、地域づくりがほとんどでしたが、それぞれの職場では市民の皆さんと一緒に課題に取り組み、その中で皆さんに育てていただいたという感謝の気持ちでいっぱいです。それだけに残された時間はこれまで培ってきた専門性を活かし、次代を担う皆さんに恩返しするとも、少くも市民若手職員を育てていきたいと思います。
なお、私の地域づくりへの思い等をこのほの第五章にまとめましたので、関心のある方は一読ください。

平成26年度
長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会定期総会

《会議次第》

- 1 開会のことば
- 2 同窓会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 来賓あいさつ
顧問県議員 中川博司氏 (昭和52年卒)
- 5 議長選出・議長就任あいさつ
当番幹事学年 桐澤 朗氏 (昭和52年卒)
- 6 議事録署名人の委嘱 (幹事学年より)
- 7 議事
第1号議案 平成25年度事業報告について

- 第2号議案 平成25年度決算報告及び
会計監査報告について
- 第3号議案 平成26年度事業計画(案)について
- 第4号議案 平成26年度予算(案)について
- 第5号議案 役員改選について
- 8 議長退任あいさつ
- 9 報告事項
(1) 学校の近況について
(2) 創立100周年記念誌の販売について
(3) その他
- 10 閉会のことば

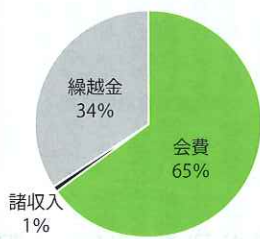


提出議案につきましては、
すべて原案のとおり承認されました。

今年度の
定期総会・コンサート・懇親会
に出席された方は
126名でした。

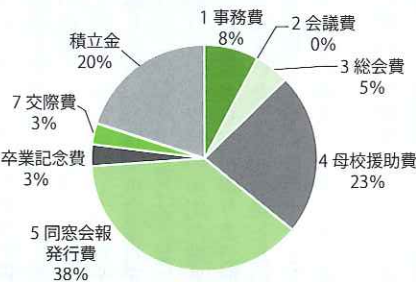
平成26年度の当番幹事のS52年卒、S62年卒のみなさまありがとうございました。
来年度(平成27年度)の当番幹事のS53年卒、S63年卒のみなさま、よろしくお祈りします。

平成25年度決算(歳入)



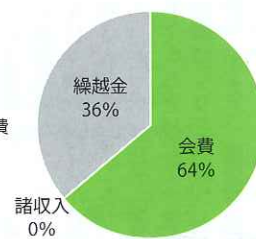
歳入総額 9,721,251円
歳入・歳出差引残額 3,759,105円(翌年度繰越)

平成25年度決算(歳出)



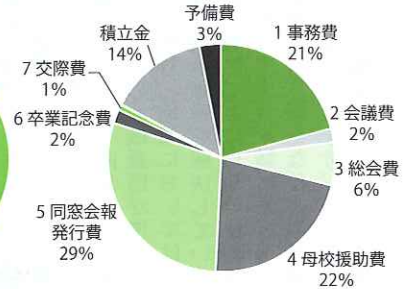
歳出総額 5,962,146円

平成26年度予算(歳入)



歳入・歳出予算額 10,510,000円

平成26年度予算(歳出)



～ 平成26年度 同窓会役員名簿 ～

役職	氏名	卒業年
顧問	銭坂明尚	昭和22
"	井口善高	昭和30
"	福島昭子	昭和26
"	寺沢宏芳	学校長
参与	中川博司	昭和52
"	斐裕一	平成元

役職	氏名	卒業年
会長	中村一郎	昭和37
副会長(会長代行)	小林磨史	昭和48
副会長	百瀬富貴子	昭和45
"	白井秀代	昭和47
"	瀬川久幸	昭和55
"	滝澤修	平成2

副会長	工藤哲夫	昭和52(教頭)
常任理事	大林好矩	昭和28
"	山田悦生	昭和42
監事	鳥羽紀子	昭和38
"	小野伸二	昭和61
会計	原元士	昭和50
"	竹松直彦	事務長
理事	三澤彦博	昭和39
"	三輪尚弘	昭和41
"	伊藤篤實	昭和43
"	上條信太郎	昭和44
"	川崎亨	昭和45
"	大沢千尋	昭和46
"	中村俊春	昭和46
"	松本武子	昭和47

理事	堤典義	昭和52
"	高橋隆夫	昭和54
"	木下尚子	昭和55
"	中村努	昭和56
"	鳥羽洋一	昭和57
事務局	田村義夫	平成3
"	住田慶子	昭和37
"	鳥羽美根子	昭和37
"	横田麗子	昭和43
学校職員	高橋一郎	昭和58
"	稲場隆	昭和59
"	祖父江信一	昭和59
"	酒井舞	平成13

平成26年度 松本美須々ヶ丘高等学校同窓会
シンガーソングライター 高橋あず美スペシャルライブ



シンガーソングライター 高橋あず美 (平成17卒)
(プロフィール)

1986年長野県乗鞍高原生まれ。両親の営むペンションでの豊かな音楽環境で暮らす。小・中・高では音楽関係の部活動に熱中し、音楽専門学校へ進学。ここではPOPS・SOUL・R&B・GOSPEL・JAZZなどの音楽が自身の声・歌の根源となり、ソングライティングを開始。自作の曲をソロ活動などで歌い始めると圧倒的な歌唱力とパフォーマンスが話題となり、大小規模のフェス・イベントのみならず、レコーディング・コンビレージョナルアルバムなどにも参加。卒業後すぐの2008年にはDREAMS COME TRUEの「Winter Fantasia 2008 DCT Garden "The Live!!!"」にBackingVocalとして大抜擢される。その後、数々のアーティストツアー、ライブ、レコーディングに参加。2013年5月8日に自身のファーストアルバム「25 to 26」が全国発売された。

キーボーディスト ^{おたに めぐみ} 大谷 恵
(プロフィール)

函館市生まれ。東京音大卒。3歳よりピアノとエレクトーンを始める。中学3年生でヤマハエレクトーンコンクール第1位。同大在学中は、様々なビッグバンドと共に活動。現在は、フルートとの2人組ジャズユニット「SpiceTree」創作、演奏活動を定期的に行っているほか、クラシック、ジャズ、ポップス、映画音楽などの作編曲、音源制作。ライブサポート、レコーディング、TV番組での演奏出演など、ジャンルを問わず精力的に活動中。高橋あず美とはアウトドア仲間でもある。

平成二十六年年度 美須々ヶ丘セミナー講演会
「みすゞのころ」から

佐藤 哲也 先生

宮城教育大学 教育学部 幼児教育講座
主任教授 / 幼小連携推進研究室室長
本校昭和58卒 野球部所属

卒業生教育学者「みすゞのころ」を語る」というテーマのもと、中学時代の様子、高校時代の野球部や生徒会での取り組み、受験や進路における挫折と奮闘、その後志した学問に向かって探求する姿を熱く語っていただきました。「自慢話のように聞こえるかもしれない。でも、心を開いて、先輩の体験談に耳を傾けて

欲しい。〈体験〉は大切。あとからジワジワと分かってくるのがたたくさんある。」と前置きし、時に赤裸々に思ひ出話や体験談を交え、「若者期の人間形成」について、教育的視点からまとめていただきながら、多様な分野に話題は広がり、とても充実した九十分でした。
在校生が今直面している課題についてはもちろん、来校して聴講していただいた保護者・同窓生・学校評議員そして職員の皆さんにも示唆に富む内容でありました。
(美須々ヶ丘セミナー運営委員会)

長野県松本美須々ヶ丘高等学校
平成26年度 美須々ヶ丘セミナー講演会
10月30日(木) 14時00分～15時30分 大抜擢

「みすゞのころ」から

宮城教育大学 教育学部 幼児教育講座
主任教授 / 幼小連携推進研究室室長
佐藤 哲也

中日生野球場 山崎大地
引継ぎ投手 美須々ヶ丘高校出身
は、高校から引継ぎ投手を務めてきた山崎大地選手が、引継ぎ投手として活躍している。引継ぎ投手として活躍している山崎大地選手が、引継ぎ投手として活躍している。

翌日、松商学園と大接戦
先制するも遅いつかれ延長戦
10回裏、足立雄圭投手(エースで4勝)にゴロオラ本塁打を浴びる。
3対2で敗戦

後輩のみなさんへ4つの問い

- ①全力で打ち込んでいますか? **形勢補給**
- ②コンプレックスに苛まれていませんか? **短所と長所は裏表**
- ③挫折を悔いていますか? **危機・出会い・覚悟**
- ④自己中心のなっていないですか? **ケアリング**

志(夢)を持って(今)を誠実に生きていきましょう!!
それが「みすゞのころ」です!!!

教育学への道

- 勉強を頑張ると女子生徒にモテる!? **外発的動機付け**
- 手段が目的化していく。 **内発的動機付け**
- 自分を認め、応援してくれた恩師 **安全基地**
- 憧れの対象、自他に敵しい恩師 **発達モデル**
- 学問は切りが無い、でも更切らない **教養(Liberal Arts)**
- "先生"と呼ばれる職業の矜持 **謙虚さ、向上心**

高校卒業後に待っていたもの

日本福祉大学 社会福祉学部 二部 社会福祉学科 入学

- 多くの富学生、でも夢と情熱に満ちている。
- 二部での生活が〈手段化〉している自分。
- 「こんなはずではなかった」5月病
- 2ヶ月で進学 **自覚同一性の危機**
- 向も言わず、聞かず、仕送してくれた父兄。 **通修課** ×(錦千紗)
- 其より量(1日12時間の延修) **人生** やり直せる
- 偏差値44から半年で65に急上昇。
- 明学(社)、青学(文、管)に合格

忘れられない恩師の言葉

- キミは数学的に物事を考え、人に伝える力がある。
なぜ数学の成績が悪いのか不思議だ。 担任:望月茂夫先生 **ポジティブ・メッセージ**
- お前は必ず出世する。生物:小林隆先生 **指示? 予言の自己成就?**
- 誰も見なくてもやるんだぞ。野球部:渡辺勇明監督 **過程(プロセス)が大切**
- 振り返り、考え、目的を持って。元市中野球部:胡越沢清監督 **「汝自身を知れ」**

高校時代に頑張ったこと

- ①野球部 高球、野球ノート、長靴、全力疾走 **体力と努力**
- ②読書 シュータスピアの四人恋劇、聖書、カミコ **内省**
- ③キリスト教 高3クリスマスに受洗 **信仰誠実**
- ④生徒会 2学年生徒会長 生徒会副会長 **規範意識**
- ⑤受験勉強 高校3年生の10月20日からスタート **集中力**



平成25年度・26年度 クラブ活動の主な大会報告

学芸クラブ

FMC 演劇 合唱 写真 吹奏楽 ダンス 美術 書道 放送
新聞 情報処理 生物 被服 漫画 華道 茶道 映画研究

25年度

FMC	高校軽音合同演奏会中南信大会 「Buzz」最優秀賞 (第1位) 「Ro:zic」準最優秀賞 (第2位) 高校軽音合同演奏会県大会 「Kenedy」準最優秀賞 (第2位) 「C-GATE」優秀賞 (ベスト4)
演劇	高校演劇発表会県大会 「おかしな二人」(優良賞)
合唱	NHK合唱コンクール県大会 銀賞
写真	中信地区高校写真展 (選考展示) 県高校写真展 (3作品選考展示)
吹奏楽	吹奏楽コンクール大会 中南信地区大会 金賞 代表 県大会 銀賞 中部日本吹奏楽コンクール県大会 第38回定期演奏会 管楽器個人・重奏コンテスト 1位
ダンス	県高等学校総文祭ダンスフェスティバル 特別賞 (ベスト5)
美術	松本学生美術展 (松本市) 県学生美術展 (飯田市)
書道	中信高校書道展覧会 県高校書道展覧会 金賞1名 銀賞3名 銅賞7名

放送	NHK杯高校放送コンテスト県大会 ラジオドキュメント・朗読・ テレビドキュメント・アナウンス NHK杯高校放送コンテスト全国大会 ラジオドキュメンタリー「お互いに」 準決勝 朗読 準々決勝 (優良賞 県代表) 全国高校総合文化祭 ビデオメッセージ『藍』 文化庁長官賞 朗読
新聞	全国高校総合文化祭 第2回学生記者海外派遣事業 信濃毎日新聞withYou:取材と執筆 ・「ダンスにかける想い」 ・「伝える工夫」

26年度(経過)

《県高等学校総合文化祭》

FMC	軽音楽系クラブ合同演奏発表会 C-GATE
演劇	高等学校演劇発表会県大会 「B面セレナーデ純情奇譚」 平成27年度関東高校演劇サマーフェスティバルへの 出演を推薦される
吹奏楽	吹奏楽コンクール大会 中南信地区大会 金賞 代表 県大会 銀賞
放送部	NHK杯全国高校放送コンテスト県大会 優秀賞 + NHK長野賞 *ラジオドラマ「雨上がりの足音」 NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会 全国高等学校総合文化祭 (水戸市)

運動クラブ

弓道(男女) 剣道 サッカー 水泳(男女) 野球 陸上(男女)
ソフトテニス(男女) ソフトボール 卓球(男女)
バドミントン(男女) テニス(男女) バスケットボール(男女)
ハンドボール(男女) バレーボール(男女) フットサル

25年度

県高校総合体育大会

弓道	男子団体 3位 女子団体 女子個人
剣道	男女団体
サッカー	1回戦 PK 6-7 長野日大
水泳	男子 100m自・100m平・200m平 200m個・400mR 女子 50m自 100m自 100m平 (7位北信越) 200m平 (4位北信越)
ソフトテニス	男女団体
ソフトボール	2回戦
卓球	女子団体 個人
バスケットボール	男子
バレーボール	男子
ハンドボール	男女
野球	全国高校野球選手権
陸上	男子 3000sc 5000競歩 走高跳び 三段跳 ハンマー投げ やり投げ 4×100mR 女子 100m 200m 800m 走高跳 走幅跳 やり投げ

インターハイ

陸上	女子 走高跳び
東海陸上選手権大会	
陸上	男子 ハンマー投げ
北信越高等学校体育大会	
陸上	男子 ハンマー投げ 3位
水泳	女子 平泳ぎ
北信越高校弓道新人大会	
女子 団体	ベスト8

全国高等学校選抜大会

弓道	女子 団体・個人
卓球	女子
東日本高等学校弓道大会	
女子 団体	
5人制の部	準優勝
3人制の部	3位

26年度(経過)

《長野県総合体育大会》

ソフトテニス	男子 団体 5位 女子 団体 7位
卓球	男子 団体 5位 女子 団体 5位
バレーボール	男子 準優勝
バスケットボール	男子 8位 女子 準優勝
バドミントン	女子 団体 5位
ハンドボール	男子 4位 女子 3位
サッカー	4位
弓道	男子 団体優勝 個人 平塚 2位 川窪 4位 百瀬 5位 女子 団体 5位 個人 下條 7位
陸上	ハンマー投げ 瀧本 1位 円盤投げ 瀧本 3位 400mハードル 忠地 2位

《北信越高等学校体育大会》

弓道	男子 団体 3位 女子 団体 3位
陸上	ハンマー投げ 瀧本 1位 円盤投げ 瀧本 4位 400mハードル 忠地 2位

《全国高等学校総合体育大会》

陸上	ハンマー投げ 瀧本
----	-----------

シリーズ 美須々のころ④

松本美須々ヶ丘高等学校校歌

松本美須々ヶ丘高校100年の歩みを綴った記念誌『美須々のころ』の中から次代へ受け継いでいきたい美須々精神や学校の歴史など、特筆すべき記事をシリーズで紹介します。

学校の体裁も整い、県立移管を完全に終えた昭和三十二年（一九五七年）PTA事業として、校歌制定が議題提案され、教職員・PTA・同窓会から選ばれた委員による校歌制定委員会の発足をみた。そして、制定方針が確認された。

一作詞は一番二番三番の如き定型に陥らず、むしろ長い一つの詩が歌でまとまった新形式のものが望ましい。二 莊重というよりは、若い男女・全定の生徒らが誰でも素直に歌い得るもの。

三 作詞者、作曲者の依頼先としては、時代感覚を心得た若い詩人・若い作曲家を念頭におき、なお、信州に理想のある作者が望ましい。

いかにも新しい時代に伸びていこうとする新生の学園を象徴するような基本方針である。

挙げられた作詞依頼の候補者は、尾崎喜八 土屋文明 日夏耿之介 三好達治 亀井勝一郎 白井吉見 佐藤春夫らであった。その中から佐藤春夫を第一候補としてしぼり、委員長で校長の竹前友治郎が依頼のため上京し、快諾を得た。

詩人・作家・古典的格調をたたえた抒情詩で知られ、日本芸術院会員として詩壇の重鎮であった佐藤春夫から九月に二編の詩稿が送られてきた。

校歌制定委員会は、職員会や生徒会とも協議をして第一稿を採ることに決めた。いまの松本美須々ヶ丘高等学校校歌である。

正式決定に先立ち作者を招いてこの地に立つてもらい、この詩のころを生徒や保護者に語っていただきたいと要請した。求めに応じて佐藤春夫は夫人とともに来松し、十一月七日全校生徒・職員に「み

す々の志」と題して講演した。当時の学校図書館司書青木民子により、その要旨が図書館雑誌「すずたけ」創刊号に掲載されている。

《佐藤春夫講演要旨》
校歌の作者として皆さんにお目にかかることは何より喜ばしいことである。作詞は、耳で聴くものだから、解り易いように作ったつもりでありすが、更によく解っていたかどうかをお話をして 納得のいく様にしたいと思ひます。

校歌は今まで三十数編作っています。地区でいえば九州から北海道まで、またそれは大学から小学校までで、この中の七分通りは高校の校歌であり、これだけ集めても詩集ができる位であります。

私は抒情詩人であり、抒情詩は自分の感情をえがき出すものでありますが、校歌は観念的であります。私は負けじ魂に鞭うち一年寄りの冷や水的に——不慣れなことであるけれどやってみました。

第一稿をお採り下さったようですが、何れをお採りになっても結構です。第一稿は破調であり破調の難しいところは意味の難しいところでもあります。校歌は長く歌っても飽きないものでないてはいけませんので、破調とそうでないものを作りましたが、どちらでも結構です。皆さんの気に入ったものでよいのです。第一稿の破調の方は、やや長い散文的で二節からなっています。（中略）

第一節は、人生とは如何に生くべきか、第二節は、青年の方にどういいう心掛けを持ってもらいたいかを語ったものであります。

（一）みすずの言葉に因んで
学校の名になっており、学校の象徴になっているからこれをうたいました。
われ学ぶ みすずのころ

「みすず」の精神を自分たちが学んでいるのです。「みすず」は土に伏して、風雪に耐え土に低く身を伏せています。
根はかたく 葉は潔し

現実即して生活力強し、葉はすがすがしく美しいです。みすずこそ人生を知れ……これは命令形ではなく「こそぞ知れ」です。「こそぞする」の如く。

言葉にアクセントをつけて美しくしました。「みすず」（植物）は人生を知っているし、作者もまた知っています。諸君は自ずから知ってもらいたいのです。人生に処する道を「みすず」はよく知っています。人生はたかぶらず——ちやほやされる人ではなく——地上に謙遜にへりくだって根強く花のようにきれいでなくても清々しく美しいのです。

「みすず」はそうした植物であり、吾々はその「みすず」のころを学ばねばならないでしょう。

（二）人なれば人たる道を
われ学む 情操 知性

情操——知性 堅い漢文朝の言葉を純粹の日本語になおしました。諸君の心持ちを、私の理想を、あなた方の立場から言ったものです。人間らしい情操・知性を求め、何事においても虚偽らず精神は平和、他人に対する心も平和、本心から他人と交わるのです。

友愛に生く……新雪に似る
友愛——お互いにその気持ちで友愛に生きる。人と人のみでなく、国と国もそうでありたいものです。平和な気持ちで交際できる様、諸君自らそうした気持ちになつてほしいのです。自分たちの心はアルプスの新雪の如く、けがれなく、美しく、諸君の心もそうあつてほしいです。世界の将来を示すような純潔な高い心、友愛の心を希望します。むしろ、諸君が自分からそうした気持ちになつてほしい

のです。何回も歌っているうちに意味をよく理解し知ったところを、行いの上に現してもらいたいのです。この短い歌の底に含まれている意味を訥弁ながら紹介したのはそのためであり、わざわざ東京から来たのもそのためなのです。どうか私の希望に副うようにして下さい。

講演のあと詩句や表現についての質問にこたえて、一律平凡をさけるために、ことさらに古語を用いることのあること、更に校歌のように長く歌い継がれていくものは多少難解な部分があり、意味の通じにくいところがあつてこそ倦きが来ず面白いのだ、などと冗談も交えて聴く者を魅了したという。

「佐藤先生は白髪の端正な方だったという印象が残っています。お話の中では『アルプスの新雪に似る』というのが、若い人が世に先んじて清新な思想を持ち、行動することを暗示するように、高い峰々の新雪を歌つたのだとおっしゃった言葉を覚えています。」

「わたしは職員室でお茶を差し上げたり、校内をご案内したりしました。先生は足がご不自由なようでした。廊下を歩かれるときも『お手数かけます。家でも家内の厄介になつてゐるんですよ』と飾らずに話しかけてくださつて、温かい素朴なお人柄を感じました。それまで本や写真でしか知らなかった人間・佐藤春夫にふれた思いでした。

すぐに一部詩句を改めた決定稿が届けられ歌詞が決定、作詞者の紹介で作曲を大仲寅二に依頼した。大仲寅二は山田耕作に師事し、ドイツで学び音楽や合唱曲の分野で活躍中の作曲家であり、島崎藤村の「椰子の実」の作曲家として知られていた。
昭和三十三年一月、楽譜が送られてき

た。厳冬期であったが学びたいという皆の一念な思いに音楽科の教諭岩原幸子の歌唱指導を経て、二月九日校歌制定を記念する全校生徒による発表会が開かれた。

松本美須々ヶ丘高等学校の生い立ちを思う時、その背景にある時代、地域社会の事情や要請の中で生まれ、変容し、統合するなどの歴史を辿って今の松本美須々ヶ丘高等学校が存在する。このことがこの学校の歴史的な特色だと思ふ。「校歌が定まり、学校としての体裁が整い未来に向かつて」の思いの中で、「みず々の志」を歌う、校歌として第一級の校歌が誕生した。

「たかぶらず土に伏し 風雪に堪え根はかたく 葉は潔し」とうたう現在の校歌。そこにすべての過ぎ去った時の営みが集結してほしい、と私たちは切に願う。

更に、「松葉に清し その葉をば胸に結ぶ」とうたった乙女子たちも、校歌を希求しながら「いよいよ深し我が至情」と歌った若人たちも、風雪に堪えて苦難の中にその時代を生きた生徒たちも、今、この「普通の人の念い」や「若い志」をうたうこの校歌に思いを結集していただきたいと切に願う。

また、「みず々の心」をうたうこの校歌が「アルプスの新雪に似る若き志」を奮いたたせ、友愛を結ぶものとして、歳月を経てもその若き日に思いを繋ぎ続けるものであることを願ってやまない。

進学合格状況 (平成25年度末 延べ人数 浪人含む)

Table with 4 columns listing university names and counts. Categories include National/Public Universities (18), Private Universities (296), Public Short-term Universities (10), Private Short-term Universities (40), and Specialized Schools (62).

事務局だより

本校創立100周年記念誌を好評発売中

1冊 5,000円

ご購入希望の方は事務局までご連絡ください。

教育会館(同窓会館)をご利用ください。

(同窓会の前に見学して、懇親会へ) ご利用希望の方はご連絡ください。事務局は毎週火曜日開館しています。10時~15時

TEL & FAX 0263 (33) 2560

同窓会ホームページ・リニューアルのお知らせ

平成27年1月下旬 開設予定

同窓会のホームページを下記のとおり、リニューアル開設しました。同窓会の様子を知る情報交換の場として、有効活用してください。是非、ホームページへのご意見、ご感想、掲載依頼などをメールでお知らせください。皆さんのご意見を参考により良いものを作っていくと考えております。

URL http://www.misuzu-dosokai.jp/ E-mail jim@misuzu-dosokai.jp

編集後記

本会前事務局長 荻原幹雄様が二月十三日にご逝去されました。故萩原事務局長は、本校在職中から同窓会の活動を支え牽引し、退職後も事務局長として永く本会の発展のためご尽力いただきました。ご冥福をお祈りいたします。

訃報



本年も残りわずかとなってしまい、さまざまな思いが去来する昨今です。大雪や大雨、御嶽山の噴火など、全国各地での人知を超えた自然災害による悲しい出来事が多かつた年でした。今年には三人の新理事をお迎えし、自己紹介文では焼き物、サッカーに寄せる熱い想いを書いていただきました。定期総会には百名を超える大勢の会員の方が出席し、一年ぶりの旧交を温め賑やかに楽しいひとときを過ごしました。懇親会の前には披露された高橋あず美さんの歌声の素晴らしさには感動の拍手鳴りやまず。さらに彼女が歌う校歌は、かつて聞いたこともない美しいバラードとなつて、心の奥に響きわたりました。◆新理事の堤さんの文の続きを記しますが、松本山雅FCが十一月一日アビスパ福岡とのアウェイでの試合において、遂にJ1昇格を決めました。現地で応援のサポーターは勿論、PVやTVの前の中老若男女のサポーターも歓喜の渦の中にありました。地元にとつてこの上ない喜びです。来年の活躍を期待し、それぞれの活動の場でも、同窓会活動においても「みず々の」ころをひとつに「前へ。まさに「One Soul」しよう。(事務局)